

大原山報



山主 戒誓信玄

お施餓鬼の心

大原山のお盆の行事である「大寄法要」の水向け施餓鬼には『大寄り』と申すように、有縁の亡き精霊が集い寄ると言われ、檀家だけでなく縁故寺院の檀信徒はもとより、近隣各地より大勢の信者さんが沢山参詣されます。当日は、水向け施餓鬼、祠堂施餓鬼、初盆施餓鬼を勤めます。また、六日の朝に原の村施餓鬼を勤めますし、お盆の棚経参りも基本はお施餓鬼です。

施餓鬼の施とは、ほごじすことにて陀羅尼を称え、水向(手向け水)して、皆が幸せになれるように普く施す布施の心を養う大切なお勤めです。

施餓鬼とは、言葉通りの解釈すると、餓鬼道の世界に落ちて苦しんで迷える餓鬼に飲食を

※越の秀嶺 西福寺



勝骨勅 運仏願の寺



施し、供養をすることを第一の目的とします。そして、その功德を先祖の供養にふりむけ(回向)、極楽浄土でやすらかに暮らせぬよう念じ、更に施主の福德延壽を願うものです。つまり、今日有るは、先祖のお陰。自分自身に与えられた、生かされている生命に感謝し、今は亡き先祖の霊を回向して供養申し上げる法要です。

物の尊さや有り難さ、感謝の心を忘れて金・金・金とお金で満たされる事が最上の幸福と思いつまみ、お金儲けに走り詐欺・賄賂・横領・使い込みを平気でしてしまう厚顔無恥な餓鬼。遺産相続で親子兄弟が仲違い、友人をも裏切り保険金を掛けて夫婦や親子が殺し合う悲惨な事件が後を絶たない。顔に人間の仮面を被った餓鬼そのものです。

食へ物を粗末にし、弱い命を破棄しながらも何の恥じらいも知らない餓鬼。自分さえ良ければよいというエゴ餓鬼。

もっと幸せに、もっと豊かに、あれも欲しいこれも欲しい。家族が平和に暮らせる日々に満足せず、欲しい欲しいの欲望の深さが、生きながらにして餓鬼の心を作っているのです。人として生かされている私達も、施すことをしなければ、必ず餓鬼道に落ちます。

人の生命は、生命ある肉や魚そして穀物野菜

等の多くの生命を奪って生きています。生きとし生けるものの生命を尊び、おかげさまの心を養う。自分だけが良かったら良いのではない。全ての生命、全ての人が救われる事を願うのが施餓鬼です。



第三回 天講座のご案内

ぎょうてんこうざ

夏の清々しい早朝に、あなたも佛の縁に触れてみませんか。

佛教、人生、文化、健康など、お話を聞くことで自分を見つめ直し、より充実した生活を送られる事を願っております。

檀信徒の皆様は勿論、広く一般の方々、どなたでも気軽に聴き下さい。

西福寺事務所

記

8月3日(木)朝6時より7時まで

講師 西福寺住職 二橋信玄山主

8月4日(金)朝6時より7時まで

講師 敦賀市市長 米澤光治氏

※一般来聴歓迎(無料)。朝粥供養あり。

※徳川御三家・御三卿、越前・会津(松平家)の方がご住職となられた寺は『秀嶺』と呼ばれる。

大寄法要の御案内

大寄法要には、皆様方のご先祖様の精霊塔婆に一滴の浄水をたむけ、心から御霊やすかれと願いを込めてお念仏をお称えいたしましょう。檀信徒有縁の皆様お誘い合わせの上お参り下さるようご案内申し上げます。

西福寺事務所

八月八日(火)

午後六時 御速夜法要

八月九日(水)

午前六時 おあさじ

八時 水向け大施餓鬼会

九時 法話

十時 祠堂施餓鬼会

日中法要

午後一時

初盆特別施餓鬼
(西福寺檀家のみ)

法話

総本山知恩院布教師

小今阿弥陀寺住職

稗貫光遠 師

※水向け塔婆の事前申込の受付いたしません。

※マスク等感染対策は各自責任でご注意ください。

【本年度 新祠堂開白芳名】

施主 続柄 戒名

山田 敏夫 夫	願譽本国浄誓大姉
景山 誠治	景山誠治家先祖代々
景山 恒典	景山富雄家先祖代々
松橋 寿造	久保家先祖代々
松橋 寿造	戒譽圓月了頓居士
松橋 寿造	圓譽春月浄心大姉
川崎 ゆかり 父	秋岳浄斉信士
赤田 亜希子 父	洋月栄進禅定門
谷津 眞 義母	晴風美進信女

【大寄祠堂施餓鬼特別回向芳名】

山口 総直 松谷 惠美子 塩津 卓雄 田中 康弘 森口 久次郎 加藤 信夫 村野 平太郎 比田 紘 増田 久兵衛 道白 音松 篠原 幸子 宮川 清裕 河瀬 重兵衛 尾子 徳治郎 船野 清 河瀬 照子 坪谷 俊治 山本 富美枝 宮本 潔 窪田 実 坂元 とみゑ 宮川 亜米子 寺村 政男 保花 一雄 中村 伊予 川田 義昭 松葉 利彦 萩浦 まさ 加藤 吉兵衛 的場 治良 四郎 浜野 寛 塩津 大蔵 増田 孫治郎 道白 正治 小島 学 松葉 武士 山口 末松 松島 実 谷出 耀子 石谷 英丸 泉 正信 幸田 達雄 杉田 重太郎 加々 爪 常吉 辻子 彦右 工門 松永 俊郎 吉田 治 山口 清美 堂田 竹男 稲葉 均 谷川 浩治 中川 義郎 大矢 隆栄 窪田 平三郎 浜野 治良作 森口 仁平 南 徹 畑田 婦身子 畑守 政雄 川崎 修護 奥長 彦 田中 真一 辻 仁太郎 熊谷 丹後 谷出 又六 前田 信治 松原 晟雄 大矢

実 中村 信一 北村 喜久治 奥田 孫太郎 坂本 あい子 森口 寿夫 上田 とみ 谷出 晴彦 笹谷 やす子 水口 寿 松葉 馥 角谷 勇 向山 利幸 田中 幸一郎 山口 末七 大平 正幸 松永 勇 和田 彦太夫 村尾 寿一 中島 栄作 田中正勝 井上 まき 保花 甚五郎 稲葉 一男 上田 耕作 松永 勇 上野 傑 山田 真史 窪田 きくゑ 松葉 功 沢崎 留吉 宮原 貞治 定徳 武夫 藤原 藤雄 中村 直行 向山 治良 工門 上田 弥五郎 久保 富子 川口 光夫 金井 勇 金井 基晴 西念 寺 野崎 奥右 卫門 堀口 三郎 向山 静 松村 作幸 塩谷 いと 松永 茂 原すゑ子 足立 友成 小森 富美子 宗野 かの 松永 越中 前田 賢次 畠中 晃 南 繁治 大谷 輝夫 金森 慶有 高岸 裕 村口 治良作 高松 顕 山田 しず江 田辺 一郎 稲葉 信孝 砂合 一男 沢崎 喜代治 今村 さく 奥田 善四郎 稲葉 麗子 堂田 唯雄 畑中 真 奥田 徹 東正 太郎 朝見 孫兵 卫 小形 弥三 兵工 角野 とし子 扇武 三 山内 茂 奥野 洋一 宮原 敏雄 谷出 与吉 景山 孝一 北野 信吾 奥田 小司 福島 尚樹 奥田 弥五郎 北野 春雄 藤井 英子 田中 直行 奥野 はるゑ 磯辺 仙伍 芳井 能堀 二ツ矢 七イ 村井 やえ子 河端 副成 粉山 まさ子 坂本 浄昭 高岸 政子 幸田 国男 平野 一志 佐藤 登 川端 満 中川 助一 稲葉 代四 輝 久保 幸次郎 藤原 亨 西福寺 弟子 宗野 富美子 宗野 宗子 河地 春子 幾野 こと 川田 智経 辻 康弘 山川 俊夫 藤田 憲治 山口 久 竹中 春夫 河端 公 河端 深 村田 栄松 畠中 ヨシ工 中山 きみ子 長谷 部哲 松永 昭治 奥田 菊次郎 畠中 博明 和田 保 山本 春子 景山 勝次郎 上田 健蔵 幸田 慶久 景山 隆茂 井垣 公江

畑井国蔵 菅野倉雄 赤田俊一 稲葉彦作
 上山こよし 山田豊幸 角野宗雄 保花
 馨 大塚祐司 久保吉郎 西福寺遺弟
 吉田邦夫 上野秀子 岡田義和 増尾正
 畑田彦兵衛 光友喜久夫 吉岡一幸 畑
 守学 松岸寺 森本睦枝 高谷皓之 寺
 田幸男 山田順 中川信夫 高橋淳子
 小島紀弘 松永治左門 谷出齊 東谷
 清 宮原継男 浜野伸浩 八田昇太郎
 辻仁太郎 壁腰力 湯口俊雄 南尚子
 甫里定信 山口正視 江戸正五 岡本治
 雄 奥井治 松永茂 藤井博貴 芝原浩
 道白順一 久保与治平 上田三壽 古木
 正男 浜野幸一 熊谷陽 山口忠次 吉
 野俊之 久保逸男 藤本輝孝 河辺治良
 兵工 菅原美枝子 稲葉麗子 増田孫四
 郎 鳥居忠 中村太門 景山良三郎 谷
 口末治 奥田小司 北村とらを 中村利
 雄 澤崎和典 野崎治良兵工 熊谷陽
 江良みどり 中村信子 加藤繁 桐畑よ
 しえ 宮原敏雄 保花政春 原すゑ子
 加藤吉美 金井昌子 川田三郎 加藤敏
 枝 清水誠一 松田春美 森田恵子 河
 端公 東五右工門 橋詰進 坂本富之助
 久保旬子 保花博 川端昇 幸田繁 中
 村誠一 前田信治 上田一栄 中川武郎
 澤崎喜平 山田正文 田中肇 石川清
 岡本喜美雄 赤澤貞夫 瀧波正雄 兄弟
 弟子 山本勲 山本弘子 壁越学 津田
 博 松橋寿造 西尾純一 赤星亮一 東
 昭 田中信子 川井和男 坂本淨昭 森

口明 原幸子 山本耕吉 加藤守 森田
 勝治 景山泰裕 井口留夫 山中慶子
 西一英 久保隆夫 上田一宏 加藤誠治
 森田信一 増田次郎太夫 南繁治 増田
 強一 高松顕 芝原利雄 松永敏雄 松
 島寛 川端昇 赤田百合子 加藤彰 宇
 野三雄 稲葉良一 山田清雲 上田行弘
 景山隆茂 中村昭彦 鷺田清子 柳田富
 美子 学正末治 芝原利雄 川久保孝夫
 豊川たつ 奥野一義 糀谷寛 松永義一
 大矢隆栄 橋本国男 篠田敏 今度和雄
 赤星英之 石畑容子 小林明美 柳田富
 美子 大道正彦 北川久生 窪田さくゑ
 久保逸男 中村貴之 野崎雪 景山義行
 八田昇太郎 辻子嘉郎 柴田健次 西村
 誠 金井隆幸 澤崎宇平 金井義金
 朝見一 谷口渥子 大矢英樹 橋詰貢
 谷口政子 吉水正善 松重濤子 中村義
 治 岡本すえ子 浜野学 松永暎 清水
 賢涼 菅野光男 赤田稔 橋本とみ子
 河辺真奈己 東秀一 田中和子 高橋肇
 奥田敏明 内藤一彦 井上紀美子 伊原
 透 的場健夫 畑中卓実 大谷輝夫 稲
 葉みどり 瀧脇秀夫 畑守芳子 金子久
 美子 上野齊 森下里美 畠中陽子 松
 永勇二 松永一孝 窪田俊美 鳥居忠
 稲葉博暎 田中久子 足立佐智子 吉田
 裕 景山健一 垂水壽美子 朝見勇
 林三喜夫 遠藤智 久保富子 長谷川富
 夫 堂下武雄 奥村照男 稲葉均 森田
 芳樹 赤田晴彦 林美知子 上見常男

池本英男 向山功 山本みつ江 高橋み
 や子 濱上和夫 松葉恵明 伊原美里
 榎村繁一 田倉祐士 久保富子 堀口保
 雄 辻すみ子 川田克己 中谷愛子 山
 本忠一 稲葉良一 町野恵 河辺久男
 谷出修 遊津一徹 畑幸夫 濱野伸浩
 畑芳則 南隆弘 稲葉俊郎 花木信徹
 中川巧 和田宗晴
 【普通回向芳名】
 大音次男 北五右工門 宮本弥次郎 田
 中平七 田中平右工門 幸田藤次郎 辻
 清松 加藤彦太郎 浜野幸一 芝原久五
 郎 高橋さみ子 山中隆 沢崎博 赤田
 正美 加藤鋭史 中村一夫 榎村繁 井
 上梅野 金井源兵衛 庄司政雄 橋詰石
 男 立木九兵衛 山形政 岩谷民次郎
 増田孫四郎 橋詰孫太夫 上田晴義 西
 浦幸一郎 臼井隆 奥井静 浜上もと
 良方日出男 大友英和 稲葉敏雄 本田
 仁三郎 東甚右工門 沢田正夫 飯田は
 る江 田中信枝 藤井ちか 野崎雪 沢
 崎正夫 奥田すえの 寺谷ハス工 古木
 正男 原田芳造 下山啓造 鳥羽鉄男
 野村清二 増田次郎太夫 向山和治 川
 井和男 谷口幸一郎 山田一博 奥田力
 ツ子 澤崎藤一 芝原由松 野崎治良兵
 工 田中須弥 (順不同・敬称略)

※祠堂回向の方は、当日、三門にて
 必ず受付を済ませてください。

初盆特別施餓鬼のご案内

初盆とは、満中陰(四十九日)が過ぎ、初めて迎えるお盆の事を指します。特に大事な方が、お浄土から初めてお帰りになるお盆は、手厚く供養するのが本義です。西福寺のお盆行事としては、大寄の祠堂施餓鬼や、水向け施餓鬼は広く知られていて檀信徒以外の方々もお参りされて賑わいますが初盆の行事としては意味合いが違ってきます。縁故寺院の檀家さんの初盆供養は其々の菩提寺で供養がされておりますが、西福寺の檀信徒の初盆供養は特別にされないのが現状です。

大勢の方々の要望もあり、大寄法要の午後、左記の如く、初盆特別施餓鬼を奉修致します。

記

- 一、日 時 八月九日(水)午後一時より仮御堂にて
- 一、対 象 昨年の大寄法要より今年の大寄法要までに満中陰が済んだ精霊(満中陰が済んでいない精霊は明年が初盆となります。)
- 一、回向料 初盆特別施餓鬼 一霊 金貳萬円也
- 一、申 込 別紙申込用紙にて七月末日までに回向料を添えて寺務所までお願いいたします。

※但しこの施餓鬼は西福寺の檀家のみが対象のお勤めです。

※初盆特別施餓鬼は大塔婆にて諷誦文供養の特別回向を致します。施主親族は勿論、初盆精霊に深いご縁の有る方もご供養をしてあげてください。

※初盆精霊以外の回向は致しませんのでご了承ください。

情は人のためならず

情は人のためならずの意味が、人に情をかけることは、その人のためにはならないと思いがちですが、それは間違いで、人に情をかけることは、自分に良いことが巡ってくるというのが本来の意味です。

「人のためならず」とは、実は自分のためなのです。お釈迦さまが説かれた「因果応報」の教えなのです。

「慈悲は人のためならず、廻り廻りて我が身のため」と言う言葉と同じです。ここで言う慈悲の心とは追善のことです。追善とは追善供養、即ちお盆や彼岸の廻向。年回法事や月参り等々の故人に対する供養です。

桃栗三年柿八年と言いますが、蒔いた種は必ず生えてきます。廻り廻りて、その人に、その家に必ず良い結果をもたらすのです。

追善供養の功德は「七分獲一」(ひちぶんぎやくいつ)と言ひ、お供養の功德を七とすると、その七分の一が先祖に及び、残りの七分の六が供養した人に及びとあらゆる仏典に説かれています。

佛に供養し、先祖供養すると、佛が先祖が、七分の六もの功德を私に

振り向けてくださるのです。

七分の六もの果報を受けるわけですから、先祖供養を、おろそかにすると亡き霊が果報をうけないことは勿論、残された者も果報は〇(ゼロ)のため、幸せが逃げてしまうこととなりますね。

追善供養とは廻り廻りて我が身のためです。

今年度初盆をお迎える精霊

※西福寺の檀家のみが対象です

- 故 濱野 弘樹さん
- 故 保花 喜多二さん
- 故 上野 齊さん
- 故 中村 幹彦さん
- 故 中村 忠さん
- 故 寺西 美代子さん
- 故 上田 キヨ子さん
- 故 村井 やゑ子さん
- 故 窪田 美知子さん
- 故 上田 菊江さん
- 故 田中 みよ子さん
- 故 奥 五郎さん
- 故 岸本 愛子さん



什物特別寄進者御芳名

。切妻型大型テント一張り

為総代退任記念・奥田家先祖代々供養

施主 奥田 敏明様

。越の秀嶺十五弁三ツ葉葵紋刺繍

夏用大師七条袷綾 二十肩

為亡父 浄池院清譽智蓮義昭居士 追善供養

施主 川田 克己様

川田 昭子様

※西福寺什物として永く大寄法要並びに
大法要等に使用させて頂きます

西福寺修復事業積立金

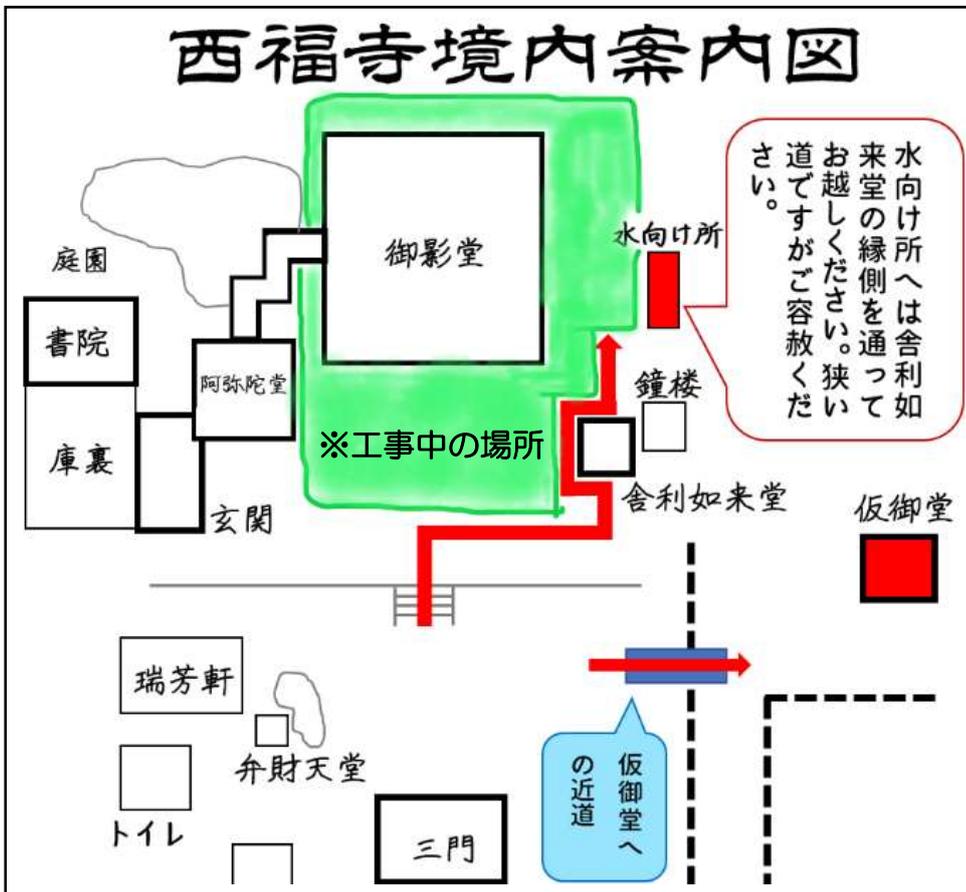
寄進者御芳名 (五回目掲載)

愛知	竹内理容店様	一万円
葉原	森下 テル子様	五万円
福岡県	金子 開富様	千円
兵庫県西方寺	貴田 善澄様	十万円
長浜市	松橋 寿造様	一万円
大野市善導寺	大門 俊正様	三万円
(三回目)		
東京都	田中 愛子様	三千元
神奈川県	朝倉 正文様	一万円

※右、御芳名を記し、西福寺修復事業に充当させて頂けます。ご寄進者に対し心より厚く御礼申し上げます。



西福寺境内案内図



大修復工事に伴い、御影堂は入室不可となっております。仮御堂の位置をご確認ください。
※仮御堂にトイレはありません。
※山内工事中につき、十分にご注意くださいますようお願い申し上げます。



対のイモリを見ると幸せになる、、、どなたからか聞きましたがご存じでしたか？



作：松尾佑一

時折、奉賛会の事務をお手伝いしている松尾と申します。数年前、娘とスタジイの実を拾いに来たのをきっかけに西福寺に遊びにくるようになった経緯があります。「せっかくなご縁があったのだから、お寺の魅力をも自分なりに感じてみたい」という思いから、訪れる毎に境内を一周するようにしています。私は、建物のことも仏教のことも全くの素人です。そのためか、植物の季節ごとの変化や生き物を、「何となく観察する」のが自分の場合、性に合っているようです。栽培されるタイプの品種の樹木だけでなく、雑草的なものもゆったり観察できるさじ加減と寛容さを、とても魅力に感じ

ています。ちなみに、駐車場に咲いていたタンポポが西洋タンポポでなかったときは、地味にテンションが上がりました。(西洋タンポポと日本タンポポとのハイブリッドの可能性もあります)水の音が聞こえてくるのもいいなあと思っています。なんと聞いたらいののでしょうか、「質のいいホテルのベッドで横になったら大変心地よく、普段意識してなかった疲れがどどーっと表出してきて、ぐっすり眠って朝になっていた」そんな力がこのお寺にはあるのでは、と思っています。

『水の音にみちびかれ』
松尾 智佳

最近、庭の外にでて、滝つぼまで登るのが気分転換になっていきます。スリッパをはき替えてわずか数十歩と、少しの距離なのです。なのに景色がガラッと変わるのが面白い



親ガメの背中に子ガメの景色も時々見られます。この日は親ガメのみ。

取り留めなく素人目線のお寺の魅力を書いてみました。毎日慌ただしく過ごしているの、お寺でのちょっとした発見が自分にとって大切な気分転換になっています。事務の方もきちんとお役に立てるようがんばりながら、密かに心身をリフレッシュさせてもらおうと思っています。

奉賛会だより⑤

《第二回 西福寺文化財
修復事業奉賛会総会報告》



令和五年六月三日(土)、西福寺書院にて奉賛会会員七十三名中、五十二名(委任状含む)の出席を得て第二回西福寺文化財修復事業奉賛会総会を開催致しました。

開会に先立ち、二橋住職から「昨年五月に奉賛会を新たに立ち上げ、一人でも多くの方のご協力を頂き、何としてもこの大事業をやり遂げなければならぬ。皆さまのお力添えをお願いしたい」と懇願されました。

高木会長からは「西福寺は敦賀の宝であり、皆様とともに素晴らしい御影堂の完成に向けて頑張りたい。国、県、市へのご協力、ご支援をお願いしたい」と決意を述べられました。

来賓として米澤敦賀市長からは「敦賀市としての文化財でもあり、心のより所でもある西福寺の令和の大修復に参加させていただきたい」と心強いお言葉を賜りました。

力野福井県議会副議長からは「新幹線開業にあわせて、敦賀市の事業者や市民の皆様のお力をお借りし、令和の大修復を観光資源として発信していくことを考えたい」と具体的なお話をいただきました。

来賓として堀井県議もご臨席いただき、山崎正昭参議院議員、滝波宏文参議院議員からの祝電を披露されました。

◎第一号議案 令和四年度事業報告及び収支報告

◎第二号議案 令和五年度事業計画及び予算について
共に全会一致で承認された。

◎令和五年度事業計画は二つが柱です。

一、広報活動の推進

○西福寺の素顔(国の重要文化財・敦賀市の宝・観光の拠点・心の安らぐ浄域・人の集う安楽の聖地)周知のための活動継続

○二〇二四年春の新幹線開業を見据え、敦賀の観光地として「東の気比神宮、西の西福寺」と慣れ親しんでもらえるよう活動継続

二、浄財勧募のお願い活動

○会員相互に連携して勧募のお願い活動の推進

○会員を募り「普請衆力」(皆で力をあわせて)ご縁の輪の拡大

閉会挨拶では、川上副会長から「活動方針の二つの柱は大事なことだと思えます。指定寄付制度も勧募のエンジンとして、皆さんと力を合わせて行きたいと思えます。頑張りますよ」と力強く締めさせていただきました。



米澤市長



締めの挨拶をされた川上副会長



西福寺書院での総会風景と開会にあたり挨拶される高木会長

寺務所通信

今後の行事予定

【暁天講座】

八月三日(木)
四日(金)各朝六時〜

※一ページ参照

【大寄法要】

八月八日(火)〜九日(水)

※二ページ参照

【棚経】

八月十一(金)〜十五日(火)

【浄焚式】

八月二十三日(水)十三時〜

【別時念佛法話の会】

九月三日(日)はお休みします

【特別納骨施餓鬼会】

十月一日(日)十四時〜

【別時念佛法話の会】

十月三日(火)十四時〜

【別時念佛法話の会】

十一月三日(金)十四時〜

【十夜法要】

十一月十八日(土)十三時半〜

【別時念佛法話の会】

十二月三日(日)十四時〜

【除夜の鐘】

十二月三十一日(日)

【修正会】

一月一日(月)

※コロナ禍の状況により各法要行事等の変更がある場合があります。西福寺ホームページと合わせてご覧ください。



【各種教室】

◎書道教室…
井上白紗
月二回週末
一回千円

◎ヨガ教室…
川島香
第二・四金曜
一回千円

◎華道教室…
甫里圭定榮
第二・四木曜
月謝二千元
花代各千円



5月9日 日本PS新入社員研修



6月21日 文化庁文化財調査官と懇談



6月21日 堤新副市長と懇談

大原山アルバム



御影堂覆屋の基礎工事



拡張工事された山門脇の道路



山門前の工事管理棟

編集兼発行人・二橋 信玄
発行所・敦賀市原十三一七 西福寺事務所
電話・(0770) 22-3926
FAX・(0770) 22-4989
メール・sai-fukuji@tnt.ne.jp